

2021年7月20日

パソコン教室の窓から(37)

NPO 法人コミュニティ NET ひたち(Cnet) 久保 裕

人生 100 年時代

今話題の NHK の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公渋沢栄一は、後半生を社会福祉事業に尽くした人物だ。『父渋沢栄一』という四男の渋沢秀夫の著書がある。現役の事業活動を離れてから、公益事業に尽くした渋沢栄一の後半生は、慈善家として「楽しむ力」を発揮した。なかなか面白い人生だ。

我々平凡なサラリーマンは、ある年齢になると会社勤めの現役を離れて、ある程度の貯蓄や年金で生活ができれば、自分の趣味に生きたいと思うようになる。あるいは個人事業者として、やりたかった仕事に挑戦してみようと思うこともある。

一方、連れ合いだって、専業主婦として一家を支えてきて、同じような思いがあるであろう。亭主の年金も半分は自分のものとして、主婦は専業主婦から離れて、自由に活動したいと願うだろう。

長年楽しんできた趣味に仲間を募り、さらに打ち込むのもよい。これという趣味もなく生きてきたとしても、それでも長年やってみたいと思ってきたことが誰にでもある。社会福祉の事業に尽くしたいと考える人もあるだろう。ところが、これがなかなか思うようにはならない。自分に都合のよい、自分の望むような、そのような機会を見出すのは難しいと気づくものである。

NPO 法人 Cnet の活動は「ICT 技術を活用して社会に貢献しよう」ということで、パソコン、タブレットやスマホを使うことが好きで楽しみにしている同行が集い活動している。平均年齢 70 歳を超えている 130 人の会員で、半数は女性である。

NPO 法人ブロードバンドスクール協会理事の若宮正子さん(86 歳)は、58 歳からパソコンを独学で習得して「シニアこそ IT の恩恵を受ける」、と活動を続けている。パソコンで絵を描いたり、EXCEL でデザインをする「エクセルアート」製作や、3D プリンターを使い、自分でデザインしたペンダントを製作して楽しんでいる。

明治の元勳の一人で、鉄道の建設や、貨幣の円の制定などをした大隈重信は「70 歳をもって人生の半ばと考えよ」といって、人生 125 歳説を提唱した。61 歳で総理大臣を務めた後、77 歳で二度目の総理大臣に就いている。大きな人生の転機に鮮やかな自己変革を成し遂げている。

『「LIFE SHIFT」100 年時代の人生戦略』東洋経済新報社発行の本のタイトル「人生 100 年」は、2017 年の流行語大賞をとっている。